



Flyin' to the Sky

京都府立大学 国際センター ニュースレター

Sep. 2017 Vol.10

目次

1. 国際交流委員会が生まれ変わりました ~国際センターの開設
2. フィリピン大学ロスバニョス校と国際交流協定を締結しました
3. 韓国 漢城大学校との国際交流協定が大学間協定に
マッコリー大学「世界遺産都市研修Ⅰ」レポート
4. 国際交流協定締結校が20校になりました
留学交流会だより



国際交流委員会が生まれ変わりました~国際センターの開設

国際センター開設にあたって



国際センター長 川瀬 光義

国際センターの設置にあたり、一言ご挨拶させていただきます。

本学は現在、海外の20大学と交流協定を締結しておりますが、その多くは、教員の個人的な努力に依拠してすすめられております。また、留学生の受入や本学学生の海外留学に際しても、十分な支援をおこなうことができていませんでした。

そこで、留学生受入、学生の海外留学、及び教職員の国際学術交流を総合的に支援する総合窓口の設置が長年の課題とされ、第2期中期計画(2014年度~

2020年度)にも国際センターの設置が盛り込まれておりました。その第一歩として、2015年7月には「国際化推進行動計画」を策定し、実現を目指してきたところです。

昨年度、京都市からの助成金を得て新たに専任職員を採用できましたことを契機に、センターの設置に至った次第です。本来目指した体制からすると小さな一歩ですが、下記の説明文にありますように、少しずつ業務を充実・拡大していく所存です。

皆様方のご指導ご鞭撻を引き続きお願いする次第です。

国際センター概要

平成29年7月に国際化を推進する学内の総合窓口として「京都府立大学国際センター」を開設しました。センター長は公共政策学部川瀬教授にご就任いただき、施設は教育共同化施設(稲盛記念会館)の事務室内に設けています。

今後、同センターでは、留学生の受入支援、国際学術交流推進等の取組などを順次実施していく予定であり、センター設置にあわせて、専任職員を配置して、新たに留学生の生活・就職相談や日本人学生の海外留学相談等を開始しました。

留学生の受入支援については、留学生の生活・就職相談とともに、日本語教育「アカデミック・ライティング講座」などを行うとともに、京都市の京(みやこ)グローバル大学促進事業も活用し、海外協定先との交換留学などの拡充を進めることとしております。

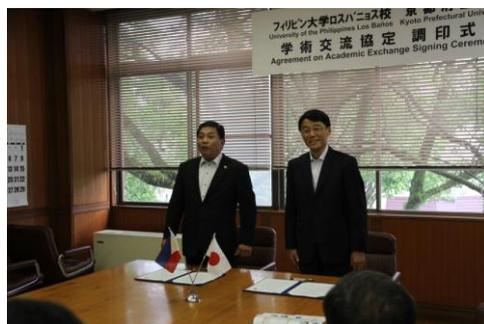
一方、日本人学生の海外留学支援については、センター内に海外留学に関する相談や資料閲覧スペースを設けるとともに、府立大学の海外留学プログラムの拡充に向けた取組などを進めているところです。

また、国際学術交流の推進については、現在、海外の20大学(13か国)と国際交流協定を締結し、教員や学生の派遣・受入、共同研究などの取組を行っているところですが、更にこれらの交流を深めるとともに、新たな大学との交流や連携を進めることで、本学の教育・研究活動を推進して行きます。
(国際センター事務局)



留学生の生活相談対応

フィリピン大学ロスバニョス校と国際交流協定を締結しました



調印式の様子

平成 29 年 7 月 27 日に、本学とフィリピン大学・ロスバニョス校 (University of the Philippines Los Baños : UPLB) との間で国際交流協定を締結しました。協定締結に際し、フィリピン大学・ロスバニョス校の Fernando C. Sanchez, Jr. 学長と、Simplicio M. Medina 国際交流センター長の 2 名が本学を訪問され、本学からは、築山崇学長のほか、渡部邦彦生命環境科学研究科長、川瀬光義国際センター長、交流担当教員である矢内が出席しました。締結式においては、国際交流協定が締結されるとともに、今後どのように学生交流・学術交流を発展させていくかについても意見交換が行われました。

さて、フィリピン大学 (University of the Philippines: UP) は、1908 年に設立されたフィリピン共和国を代表する国立大学です。教職員約 4,000 名、学生約 53,000 名を有するフィリピンにおける最高ランクの大学であり、法学、医学、政治学、社会科学、公衆衛生、理学、農学、生命科学などの高等教育を提供しています。多くの島からなる地理的要因を反映し、国内各地にある 7 つの構成校からなり、15 のキャンパスがあります (本部はフィリピンマニラ首都圏ケソン市)。フィリピン大学ロスバニョス校は、フィリピン大学の 7 つの構成校のうちの 1 つであり、マニラの南東約 64km に位置するラグナ州ロスバニョスにあります (ルソン島、マニラ国際空港から車で 1 時間余り)。1909 年に設立されたフィリピン農業大学を起源にもち、農学、生命科学や理学に関する高等教育を提供しています。学位提供プログラムは学士 29、修士 70、博士 30 に及びます。教職員約 990 名、学生約 13,700 名 (学部生 11,700 名、大学院生 2,000 名) を有し、キャンパスの広さは約 147 km² にも達します (うらやましい!)。さらに、国際稲研究所 (International Rice Research Institute: IRRI)、ASEAN 生物多様性センター、世界アグロフォレストリーセンター等多くの国際研究センターをキャンパス内に持ち、農学系の国際研究拠点としても重要な場所となっています。

フィリピン大学ロスバニョス校との研究交流は、交流担当教員である矢内氏が未だ京都大学の修士および博士課程の大学院生であった 1990 年代前半に、フィリピン大学ロスバニョス校の講師であった Florentino C. Monsalud 氏が博士後期課程の留学生として同じ研究室に属し、熱帯環境の土壌と農業に関して意見交流や共同研究を行ったことをき

生命環境科学研究科 教授
矢内 純太

かけとしています。その後、博士の学位を取得し大学へ戻られた彼と、彼を通じて知り合った Simplicio M. Medina 氏とは、多くの国際会議や国際共同研究を通じて研究交流を続けてきました。そのような状況の下、2015 年度から 2017 年度の 3 年間の予定で、「熱帯アジア水田における緑の革命 50 年の土壌肥沃度への影響評価と稲作生産力の再評価」という課題の科研費 (基盤研究 (B) 海外学術、矢内代表) が採択され、東南アジア諸国での水田土壌調査プロジェクトが始まりました。すなわち、約 50 年前に水田土壌の理化学分析のために調査が行われた圃場を再訪し、昔とほぼ同じ地点から土壌試料を採取し以前と同様の方法で土壌分析を行うことにより、「緑の革命」後 50 年を経て、施肥量の増加・農業の機械化・収量の増加などの影響によって水田土壌がどのように変化してきたかを明らかにしようというものです。フィリピンにおいては、フィリピン大学ロスバニョス校の Simplicio M. Medina 氏 (国際交流センター長、教授) および Nicola Louise Timbas 氏 (農学研究科、講師) との国際共同研究として現地調査を開始し、これまでにフィリピン国内で合計 4 回の水田土壌試料のサンプリングを実施しています。この間、矢内および中尾淳准教授による現地訪問 (のべ 5 回) に加え、本学の大学院生や学部生による現地訪問 (調査帯同) も実現しています。このように、教員ならびに学生による両大学の交流は、すでにかなり進んでいると言えます。

今回の交流協定では、研究活動における学術交流はもちろんのこと、両大学の学部生や大学院生を相互に受入れて学生交流を進めていくことが目標に掲げられています。お互いの専門分野の情報交換だけでなく、互いの文化や歴史に対する理解をさらに深めることによって、友好関係の発展やそのための人材育成にも繋がっていくことが期待されます。今後本協定が、相互交流を通じた両大学の飛躍・発展のための「礎」となることを祈りたいと思います。



UPLB の学生の助けを借りての調査

韓国 漢城大学校との国際交流協定が大学間協定に

平成 29 年 7 月 14 日、本学と韓国 漢城大学校との大学間学術交流協定の調印式が漢城大学校にて行われました。本学からは築山学長、菱田教授、井上准教授が参加しました。漢城大学校はソウル特別市にある中規模の私立大学で、「産学極力先導大学校」として韓国で注目されている大学校です。

京都府立大学文学部と漢城大学校人文大学歴史文化学部は平成 27 年 11 月に部局間の学術交流協定を締結し学術交流を進めて来ましたが、この度、大学間の学術交流協定として新たに締結致しました。これにより漢城大学校主催の研修プログラムに本学の全学部の学生の参加機会が開かれるとともに、本学における教育研究の国際化への進展、全学体制で推進する「国際京都学」の発展に大きく寄与する事が期待されます。

調印式は漢城大学校の李相翰総長はじめ 8 名の関係教授とともに和やかに行われ、調印後今後の交流の展望が語り合われました。

(国際センター事務局)



調印式の様子



調印式の後、学内を散策

マッコーリー大学「世界遺産都市研修Ⅰ」レポート

文学部 教授 山口美知代



京都府立大学欧米言語文化学科の 1 回生 11 名が、2017 年 2 月 17 日から 3 月 19 日まで、オーストラリア、シドニーのマッコーリー大学での研修に参加しました。大学の言語センターの 4 週間の語学研修プログラムに参加しながら、最終週には、京都を紹介するプレゼンテーションを英語で行うという府大ならではの課題もありました。これによって文学部欧米言語文化学科の「世界遺産都市研修」という専門科目としても単位が認定されることとなります。京都とシドニーの共通点として、世界遺産を有しているところに注目して京都の紹介をし、また、シドニーについて学ぼう、というのが世界遺産都市研修の主旨です。

昨年 12 月に最初の事前研修を行い、プレゼンテーションのトピックやグループを決めました。参加者が選んだのは、具体的には、金閣寺、嵐山、宇治、伏見稲荷、茶道でした。それから冬休みに現地へ足を運んで写真を撮るなどの準備をし、1 月、2 月と府大内でリハーサルを行ってからオーストラリアに出発。私は研修の最終週に合流したのですが、ほぼ 1 か月ぶりに会ったみなさんの自信にあふれ、コミュニケーションを積極的にとっていきこうという様子に感動しました。

プレゼンテーションには、言語センターのなかの大学進学準備コースの留学生、先生たちが聞きに来てくれたほか、言語センター主催で行われた現地の学生との交流プログラム（パディプログラム）で知り合った、マッコーリー大学の日本語専攻の学生さんたちも来てくれていて、充実した内容となりました。（写真は本番前に準備をするみなさんの様子。可動式のカラフルな椅子です。）

初回の研修を安全に成功裏に終わることができて本当によかったと思います。ご支援いただいている京都市の「京（みやこ）グローバル大学促進事業」（採択事業名「国際京都学など通じたグローバル人材の育成」）をはじめとし、今回のプログラム実現に向けてご協力いただいた皆様に心からお礼申し上げます。

文学部 欧米言語文化学科 2 回 元氏 佑美

現地では、日中にマッコーリー大学に通い、英語で授業を受け、放課後はシドニーの街を観光したり、ホームステイ先に帰って、ホストファミリーと交流したり、といった毎日でした。滞在中は、なかなか自分の言いたいことが言葉にできず、もどかしい思いをすることもありましたが、振り返ってみると、日本にいただけでは絶対に経験することのできない貴重な経験や出会いがたくさんあり、すごく充実した 1 か月でした。

英語を集中的に学べたことはもちろん、異文化を肌で感じることによって、国際理解が深まったり、日本の良さや、仲間の素晴らしさに改めて気づけたりと、英語以外にも多くの発見や学びがありました。行く前は、不安もありましたが、今は行ってよかったな、と心から思います！皆さんもぜひ、大学生のうちに、今しかできないことにどんどん挑戦してみてください！

国際交流協定締結校が 20 校になりました

2017年9月時点で京都府立大学が国際交流協定を締結している海外の大学等は下記の20校となりました。今後も海外の大学・研究機関等との交流を積極的に進めて参ります。(色付けは部局間の協定)

国名	協定	協定大学名	協定先交流部局	本学交流部局
カナダ	大学間	ラヴァル大学	--	--
中華人民共和国	大学間	西安外国語大学	--	--
	大学間	雲南農業大学	--	--
	大学間	昆明理工大学	--	--
	大学間	陝西師範大学	--	--
	大学間	国立華僑大学	--	--
	大学間	東華大学	--	--
タイ王国	部局間	キングモンクット工科大学 トンブリ校	生物資源工学研究科	生命環境科学研究科
	部局間	Mahidol 大学	薬学部	生命環境科学研究科
	部局間	タクシン大学	技術・地域開発学部	生命環境科学研究科
インドネシア共和国	大学間	タデラコ大学	--	--
オーストリア共和国	大学間	ウィーン農科大学	--	--
ドイツ連邦共和国	部局間	レーゲンスブルク大学	言語コミュニケーションセンター	文学部
ガーナ共和国	部局間	ガーナ大学	農業消費科学部	生命環境科学研究科
ウガンダ共和国	部局間	マケレレ大学	獣医畜産防疫学部	生命環境科学研究科
大韓民国	大学間	漢城大学校	--	--
ベトナム社会主義共和国	部局間	ハノイ医科大学	予防医学・公衆衛生学 研究所	生命環境科学研究科
フランス共和国	大学間	トゥール大学 (フアンワブレ大学)	--	--
フィリピン共和国	大学間	フィリピン大学 ロスバニョス校	--	--
オーストラリア連邦	部局間	マッコーリー大学	英語語学センター	文学部

留学交流会だより

2017年5月26日(金)18時より京都府立大学生協の主催で留学交流会が開催されました。プログラムの中でマッコーリー大学「世界遺産都市研修Ⅰ」に参加された元氏さん(3ページで紹介)とニューヨーク語学留学をされた若井さんが体験談を話されました。以下に若井さんの体験談をご紹介します。

ニューヨーク語学留学

生命環境学部 森林科学科 4回 若井 百香



3回生終了後、4月から11月末までの8か月間、アメリカのニューヨークへ語学留学に行きました。もともと、英語は得意ではなく、受験のために勉強したことすら忘れつつありました。そんな中、留学を決めたのは、今しかできないことに挑戦したいという思いと、様々な価値観や文化を持つ人たちとふれあいたいという思いがあったからです。実際、留学して日本ではできない経験と、出会えなかったであろう多くの人たちに出会いました。

私が通っていた語学学校はニューヨークの郊外にある緑豊かで静かな街にあり、学校敷地内に寮、カフェテリア、ジム、プール、運動場が完備されていてとても環境が整っていました。

留学中は3人部屋の寮に滞在し、週5日で授業を受け、放課後は勉強や学校のアクティビティのズンバやバレーボールなどに友人と参加していました。週末は、電車でマンハッタンまで出て、ショッピングや観光、ダンスのレッスンを受けたり、隣街のモールで映画やパーティーを楽しんだりもしました。

留学当初は英語が全く話せなかったもので、ルームメイトとも意思疎通ができず、クラスでは飛び交う会話についていくことができませんでした。しかし、授業で議論や発表をしたり、できるだけ多くの時間を友人と共に過ごしたりしているうちに、英語力はもちろん、自信も持てるようになりました。

長期留学は費用も時間もかかりますが、この8ヶ月間で得たものはそれ以上に大きいです。今はこの経験を活かして新しい事にもどんどんチャレンジしています。

発行日 2017年 9月

発行責任者 国際センター長 川瀬光義

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

TEL: 075-703-5905 Email: kokusai@kpu.ac.jp